

第3分科会 提言書

平成24年3月22日

池野理恵 大下京子 大場芳郎 山田榮一 田中秀長

第3分科会では、テーマ「市民交流・参加・意見の把握」について検討しました。

1. 「議会への手紙」の創設

市議会では、ホームページや議会広報誌を通して、議会に対する市民の意見・提言を随時受け付けていますが、年間20件ほどです。それに対し、行政側は「市長への手紙」で年間450件ほどの実績があり、議会において「議会への手紙」の創設を検討していただきたいと思います。「議会への手紙」を市民の身近な存在として、潜在的な意見・提言を引き出すものとしてほしい。そのために、公共施設に置いたり、「議会だより」に綴じ込んだりと、積極的な周知をお願いします。

しかし、議会としての回答では、市民の望むようなものでないというギャップが生じることが危惧されます。そこで、できるだけ市民目線での回答になるようお願いするとともに、回答内容の検討をできる仕組みもお願いします。

これまで組織化された団体の意見は、議会に届きやすい状況ですが、一市民の意見はなかなか議会に届く機会がありません。「議会への手紙」が同じ思いを持つ議員と市民を繋ぐきっかけとなり、さらには政策へとつながることを望みます。

2. 市民との交流について

議会への理解が深まるためには、議員を市民の代表として身近な存在に感じる必要があります。

そのきっかけの一つとして、お茶会などの気軽な交流を議員と委員で一緒に開催したいと考えています。交流会を積み重ねることにより、活発に意見の交換が行われるようになると思います。また、これまで議会と接する機会の少ないと思われる世代の方や同じ立場・問題意識を持つグループとも交流の場をもてるよう検討をお願いします。

陳情を出すことも、議会に手紙を出すことも、敷居が高いと感じている市民が、議会との接点を持つことができるようお願いします。

3. 「一緒に学ぶ会（仮称）」の新設について

「市民が主役、行政は黒子」といいますが、議会は市民の代表の集まりであり、「主役」といえます。

議員が講師をするという形ではなく、市民が知りたいテーマを提示し、議会側が担当の議員をマッチングし、議員と市民が「一緒に学ぶ会（仮称）」という形の学習会にしていきたいと思います。このような会にすることで、議会・委員会での

内容を市民に説明すると同時に市民から意見を吸い上げ、さらに議論を重ね、行政側に提案するというサイクルをつくることができます。

このシステムがうまく機能するためには、4 常任委員会に適任の議員を紹介していただくマッチング・システムや、議員個人の得意分野のリストアップが必要になり、検討をお願いします。

<分科会で出た意見>

【市民との交流】

- ・地域を歩いて現状把握を。（大場委員）
- ・公開討論で、議員活動の「見える化」を。（大場委員）
- ・高校生・大学生などこれからの松本を担う若者の意見を聞く機会を作ってほしい。（大場委員）
- ・交流会を市民参加・市民連携の必要性をアピールする機会として活用してほしい。（高橋委員）
- ・市議会主催の「学習講座」の開催。（山田委員）
- ・車座集会、ワークショップなど。（大下委員）
- ・市民活動サポートセンター等が主催する意見交換会等に参加してほしい。（池野委員）

【参加】

- ・常任委員会研究テーマへの提言。（大下委員、池野委員）
- ・議会傍聴参加拡大のために、一般的な口語体での議論、質疑応答を。（大下委員）
- ・議会に対する市民評価。（大下委員）

【意見の把握】

- ・個人の意見を聞いてほしい。（大場委員）
- ・市内の活動グループから、どのような市民意見の把握が可能か検討してほしい。（高橋委員）
- ・フォーマルな組織に属する人たちの意見は市民とは別に考えてほしい。（山田委員）
- ・地域のサークルや老人大学の受講生などからも意見を聞いてほしい。（山田委員）
- ・アンケートの実施。（高橋委員、山田委員、池野委員）
- ・市民が「市への要望」と「議会への要望」の区別がついていないので、その違いを理解したうえで意見を出してもらおう。（池野委員）

【議会の対応等】

- ・わかりやすい説明。真摯に対応を。（大下委員）
- ・議会として、その年の方向性と問題点をはっきりさせてほしい。（大場委員）